

to the next 50 years

FUKUOKA HAKATA HIGASHI



50 結成 50 周年記念誌 年のあゆみ



2018.2.20 ANA クラウンプラザホテル福岡



ライオンズクラブ国際協会 337-A 地区 4R・3Z
福岡博多東ライオンズクラブ

結成50周年を迎えて



福岡博多東ライオンズクラブ
会 長 一 色 美 昭

人生は100歳時代へ、福岡博多東LCは100年を目指して！

この度、わが福岡博多東ライオンズクラブは結成50周年記念式典を迎えることになりました。この式典に福岡県知事 小川 洋様、元国際理事・GAT 統括副リーダー 不老安正様、337-A 地区ガバナー 向井健次様、国際姉妹提携クラブ 台北市光華獅子會会長 邱獻徳様、友好クラブ 北九州帆柱ライオンズクラブ会長 岸原庸夫様、ネパールの福岡ニルマルポカリ学校 校長 キム ラル バンダリ様を始め多くのご皆様にご出席頂きましたことは私ども当クラブ会員全員にとりまして大変名誉なことでもあります。

ここに心より感謝し、お礼を申し上げます。

当クラブは1968年(昭和43年)6月に福岡博多ライオンズクラブのスポンサーにより結成され、以来50年間に亘って、国内はもとよりグローバルな視点から地域社会に密着した社会奉仕をおこなうこと、さらにその実践にあたっては、いわゆる一過性でなく、長期的なビジョンを持って継続した事業を遂行することを心がけて数々のアクティビティに取り組んでまいりました。

また当クラブでは歴代の会長はじめ役員の皆様が率先してクラブ会員はもとよりご家族も含めた融和に努められアットホームな風土・伝統を築きあげていただきました。そして、この中から熱い奉仕の精神を醸成してまいりました。これは当クラブが誇りとするものであり先輩会員の皆様に厚く感謝申し上げます。

さて、私は結成50周年にあたって「継往開来(けいおうかいらい)」を会長提言とさせていただきます。こ

の意味は皆様ご承知の通り、先人の事業を受け継ぎ、これを発展させながら未来を切り開くということです、「言うは易く、行うは難し」です。

私たちは今後50年の間に少子化と高齢化というこれまでに経験したことのない時代を迎えます。つまり100歳まで生きることが当然とされる時代を迎えることになり、当然個人の意識や行動、社会構造の変革が予想されます。このような100歳時代に「We Serve」を継続してご提供していくためには我々は何を為すべきでしょうか？

まず、このような時代に「奉仕活動を必要とされる社会」のニーズがどのように移行していくかを知ることが必要になります。今後はいままでにない新しい奉仕活動の姿を探索していくことが重要になると思います。

しかし、その半面、奉仕活動を「提供させていただく」側に属する当クラブにとっては会員の高齢化への対応が喫緊の課題として存在します。

このため、50周年を迎えたのを機に、次の項目を重点課題として取り組みたいと考えています。

- 1)50年先を見据えた、新しい奉仕活動の姿の探索。
初年度はUEV(ドローン)を活用した災害や教育支援・育成事業の在り方を研究します。
- 2) 継続アクティビティの見直し。(質・規模・アプローチの仕方・目標設定)
- 3) 若手会員の加入促進。(特に50歳以下の会員加入

を促進する)

私たち会員一同「継往開来」の精神で、ベテラン会員の豊富な経験と若手会員の新鮮な感覚の相乗効果を發揮して、100歳時代に対応した新しいアクティビティを創造し、ライオニズムの高揚に努めたいと思います。

最後になりましたがご出席の皆様の今後の益々のご発展を祈念し、また福岡博多東ライオンズクラブへのさらなるご支援、ご助言をいただきますようお願い申し上げます。

50周年アクティビティと継続アクティビティについて

結成50周年記念を迎えるにあたり、当クラブのこれまでの活動実績を振り返ったとき、諸先輩の方々が50年間という永きにわたって着実に実行されてきた数々のアクティビティと、それを支えられたライオニズム精神の強靱さに改めて敬意を表さずにはいられません。

一方、巻頭の言葉でも申し上げました通り、私たちには大きな環境の変化が待ち構えています。言い換えれば、その社会環境に対応できるような新しい視点でのアクティビティが求められているともいえましょう。

当クラブ50周年記念アクティビティの設定に際してはこのような基本的認識のもとに次の項目を設定することにしました。

1. 結成50周年記念緊急支援アクティビティ

- 1) 九州北部豪雨被害復旧支援金を朝倉ライオンズクラブに寄贈(2017.8.16に実施)
- 2) 九州北部豪雨被害復旧支援「博多座チャリティ公演」を実施(2017.11.14に実施)

2. 結成50周年記念新規アクティビティ

- 1) アイランドシティ(福岡市東区)ライオンズの森に記念植樹(2017.11.14に実施)
- 2) ドローンをを用いたWe Serveの在り方の探索・研究
例えば、ドローン(無人飛行機)には様々な可能性があります。このドローンを活用して
・災害時の緊急空撮による状況調査とそれを活用する仕組み作りの調査研究
➡自治体や消防団等との連携(サポート)により人命救助に役立てる仕組み
➡災害により町村等への道が遮断された時の食料品(飲料水)等の運搬協力の仕組み

- ・地域の祭り(イベント)を空撮記録し、若い人たちに故郷を偲ぶ心(記憶)を育む事業
などドローンを活用することにより今迄出来なかったことが容易に出来る可能性があります。
人の命、人の心を大切にするサポートをすることに、当クラブが役立てることができないかを探索・研究します。

3. 継続アクティビティ

当クラブはアクティビティの選定にあたっては「地域社会への奉仕」「ライオニズムの拡張」「青少年育成」「国際的視点からの教育支援」「地球環境保全」などを視野に取り組んでまいりました。そして特筆すべきはその活動に「継続性：長期ビジョン」を持っていることです。次の項目は継続アクティビティですが、たえず新鮮な発想と実行力でこれらをブラッシュアップしていきたいと考えています。

1) ネパールの児童教育支援

- ・福岡ニルマルポカリ学校の衛生設備の改善
- ・福岡ニルマルポカリ学校職員の退職年金基金の充実
- ・福岡ニルマルポカリ学校卒業生の留学支援奨学金基金の充実

2) 福岡市金印ライオンズカップソフトバレーボール大会の主催

- 3) 薬物乱用防止啓発活動
- 4) 地球環境保全のための植林活動
- 5) LCIF 基金への献金

それぞれの活動計画につきましては各章をご参照ください。

歓迎の言葉



福岡博多東ライオンズクラブ
50周年記念大会実行委員会
大会実行委員長 山崎 広太郎

福岡博多東ライオンズクラブ結成50周年を迎えて

みなさまのお蔭で、私どものクラブも50年の歩みを刻むことができました。

様々な変遷の末、まあまあ元気で今日を迎えております。結成時とは随分環境も変わり、それに伴ってライオンの性格や活動も変わっていったと思います。わがクラブの唯一人のチャーターメンバーの長野作郎ライオンは、大変ご壮健でいつもニコニコとこの流れを見て来られました。まず先輩方に感謝申し上げます。

今や、わがクラブには年金生活者が何人かおり、私もその一人ですが、金銭面の奉仕活動はほとんどできませんが、それなりに活動に参加して楽しんでおります。

す。一方で、これからといった若いメンバーも点在しております。伸びしろの大きな彼らの成長も楽しみです。

ライオンズクラブは、それほど理屈を言わずに「We Serve」をモットーに行動するところが大変良いと思います。今さら自己啓発はかないませんし、若い人たちは先輩方を見て何かを得てくれるでしょう。できるだけ若い人たちが中心となって、団体の力で何かをやり遂げていく、そうした経験を積むことに意義があると思います。

これからも世界一の奉仕団体の一員であることを誇りに、さらに仲間をふやし、世のため、人のためにげんきに活動が続けていきたいと考えております。



50周年記念式典式次第&50周年記念祝宴式次第

50周年記念式典式次第

(17:00~18:15)

司会	大会幹事	L.篠隈 光彦
アシスタント		松崎 里美
オープニング DVD		
一、開会の言葉並びに開会ゴング	大会会長	L.一色 美昭
一、国旗に敬礼、中華民国、並びに日本国歌斉唱		全 員
一、ライオンズクラブの歌斉唱		全 員
一、ご来賓並びに地区役員、委員紹介	大会幹事	L.篠隈 光彦
一、姉妹クラブ、友好クラブ、参加クラブ紹介	大会会計	L.野口 明彦
一、大会会長挨拶	大会会長	L.一色 美昭
一、ご来賓祝辞	福岡県知事	小川 洋様
	福岡市長	高島 宗一郎様
	元国際理事・GAT 統括副リーダー	L.不老 安正
	337-A 地区ガバナー	L.向井 健次
一、スポンサークラブ会長挨拶	福岡博多ライオンズクラブ会長	L.平河 光広
一、祝電披露		松崎 里美
一、50周年記念事業発表	大会実行副委員長(記念事業委員会)	L.児嶋 峻司
一、アクティビティ目録贈呈	大会会長	L.一色 美昭
一、謝辞	朝倉ライオンズクラブ会長	L.瓜生 茂広
	福岡ネパール・ニルマルポカリ学校 校長	キム ラル バンダリ様
一、ライオンズローア	大会実行副委員長(式典委員会)	L.山本 政人
一、閉会の言葉並びに閉会ゴング	大会会長	L.一色 美昭

50周年記念祝宴式次第

(18:30~20:30)

司会	大会会計	L.野口 明彦
アシスタント		松崎 里美
一、祝いの舞	福岡那の香ライオンズクラブ	L. 藤間 公珠
一、開宴の言葉	大会実行副委員長(記念品委員会)	L.藤野 和之
一、歓迎の言葉	大会実行委員長	L.山崎 広太郎
一、特別功労者表彰	大会会長	L.一色 美昭
	・大会名誉会長	L.長野 作郎
一、姉妹クラブ祝辞	台北市光華獅子会会長	L.邱 獻德
一、友好クラブ祝辞	北九州帆柱ライオンズクラブ会長	L.岸原 庸夫
一、乾杯	大会実行副委員長(登録・接待委員会)	L.水城 昭正
一、歓談		
一、余興		太鼓演奏
一、また会う日まで		全 員
一、閉会の言	大会実行副委員長(記念誌委員会)	L.中島 英之

祝辞



国際会長

ナレシュ・アガワル

- ・インド・パンジャブ州バタラ出身。2017年7月の第100回国際大会でライオンズクラブ国際協会会長に選出された。
- ・インドで金属及び農産物を専門とする企業の会長。
- ・1998年～2000年 国際理事。その他多くの事業の理事や後援者を歴任している。
- ・国際会長メダル(23回)と親善大使賞を受賞。
- ・ライオンズクラブ国際財団(LCIF)の大口リードギフト寄付者、人道支援パートナーでもある。

福岡博多東ライオンズクラブ
ライオンズの皆様へ

ナマステ！

このたびは結成50周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

周年記念は、これまでクラブが成し遂げてきたことを顧みると同時に、新たな奉仕の可能性を望む機会です。皆さん一人一人の思いやりの気持ち、他人に手を差し伸べようという決意が、コミュニティにおける重要な存在として、皆さんのクラブが認められてきた理由です。そして、一つ一つのクラブがそのように努力してきたからこそ、ライオンズクラブ国際協会は1世紀に渡り、奉仕分野のグローバル・リーダーであり続けることが出来たのです。

皆さんのクラブは、全体にとって良いことの実現のため、人々と一緒に集まり力を合わせることで、一人一人がやるよりも大きなインパクトを残せるということを理解した、思いやりのあるメンバーにより結成されました。これこそが、「パワー・オブ・ウィ(Power of We)」、私たちが持つ力なのです。奉仕を通じて世界をより良い場所にするという私たちの伝統を受け入れ、引き継いでいくことで、皆さんは国際協会が新たな高みに到達することを助けてくださっているのです。

援助を必要としている人々に手を差し伸べ続けることは、皆さんが献身的な活動を継続してくださることではじめて可能になります。心から感謝いたします。

重ねて、貴クラブの周年記念をお祝い申し上げます。今後も、皆さんと共に奉仕を続けていけることを心から光榮に、そして楽しみに思っております。

心を込めて。

祝辞



台北市光華獅子會

第43届 會長 邱 獻德

一色 美昭 会長及び会員の皆様

福岡博多東ライオンズクラブが本日、ここに結成50周年の記念式典を盛大に開催されますことを台北市光華獅子會を代表し心よりお祝い申し上げます。

台湾は日本に近く歴史の中でも、とても親密な交流をしています。福岡博多東ライオンズクラブとは国際姉妹クラブとして42年間絶えることなく交流を深め、親交を育んでまいりました。こういった両クラブメンバー、家族との心のつながりが更に絆を深め、「We Serve」の精神を共有し、今後更に発展し続けることを確信しております。

特に福岡博多東ライオンズクラブは国際社会において貧困国の援助活動を行い発展の手助けをし、また、マングローブ植林のボランティア事業などに鮮やかな成果を残しています。全ての人の為にサービスを提供し、人道主義精神を広く知らしめると共に、台北市光華獅子會も学んでいきたいと思います。

42年間絶えることなく交流し、ただのライオンズクラブのコミュニケーションだけでは無く、さらに台湾と日本の両国の相互交流と訪問を通じて友情の道を開き、橋渡しを行って参りたいと思います。毎年、定期的な訪問の際には日本と台湾の文化交流及び皆さまからのお気遣い、心よりのおもてなしに対しメンバー一同いつも感銘を受け感謝いたしております。メンバーを代表し改めまして御礼申し上げます。これからも、昔と同じように交流をもっと深めてほしいです。

さて、博多東ライオンズクラブも今年結成50周年を迎える際、私、台北市光華獅子會の第43代会長として、及びライオンズクラブの全員より心からお祝い申し上げます。

一色 美昭 会長をはじめとする博多東ライオンズクラブにより、事業がぐんぐん伸びるとそれぞれのボランティア事業も、もっと素晴らしくなることと思います。一色 美昭 会長をはじめとする皆の努力のうえで、博多東ライオンズクラブとこれからの素晴らしい50年を期待しています。今後更に発展し続けることを確信しております。

これまで同様にご理解とご協力をお願いいたします。

最後に貴クラブの益々のご発展と会員皆様及びご家族のご健勝をお祈りし祝辞のご挨拶とさせていただきます。

祝辞



福岡県知事
小川 洋

福岡博多東ライオンズクラブの結成50周年を心からお慶び申し上げます。

皆様は、昭和43年の結成以来、長きにわたり、青少年の健全育成、環境保全、国際交流など非常に多くの分野で、日頃から大変熱心に地域に根ざした奉仕活動を続けておられます。

一色会長をはじめ歴代の役員並びに会員の皆様の御熱意、御努力に、改めて敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

さて、今日、私達を取り巻く社会環境は、少子高齢化、人口減少の進展など大きく変化しています。こうした中、社会の活力を維持し、住みよい地域環境を作っていくためには、行政だけではなく、ライオンズクラブの皆様をはじめ、NPO・ボランティア、企業など多様な主体が互いに協力し、支え合う「共助社会」をつくることが重要であると思います。

社会の幅広い分野でリーダーとして御活躍されている皆様が、率先して取り組んでおられる社会奉仕活動は、こうした社会を実現するための大きな推進力、原動力となります。

また、私は、県民の皆様が「この県に生まれてよかった、生活してよかった」と思っているだけの「県民幸福度日本一」の福岡県を目指しています。

これを実現するためには、「We Serve」の精神のもと、御活躍されている皆様方のお力が必要となってまいります。今後とも、私ども県政への御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

皆様方には、この50周年を契機として、より一層充実した活動を展開していただき、多くの人が皆様の後に続き、活動の輪がさらに広がっていくことを期待しています。

福岡博多東ライオンズクラブの今後益々の御発展、そして会員の皆様の御活躍、御多幸を心からお祈り申し上げます。

祝辞



福岡市長
高島 宗一郎

福岡博多東ライオンズクラブが結成50周年を迎えられ、記念式典がこのような盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

貴クラブにおかれましては、昭和43年に結成されて以来、会員の皆様の熱い奉仕の精神のもと、一日一善募金や街頭献血運動、環境保全の植林事業、ネパールの子供たちへの教育支援など地域に根ざした奉仕活動や国際的な支援活動に積極的に取り組んでこられました。

これらの活動が長きにわたり継続されておりますのも、歴代会長をはじめ、役員・会員の皆様の弛まぬご努力と熱意の賜物であると、心より敬意を表します。

また、このたびの九州北部豪雨に際し、貴クラブをはじめ全国各地のライオンズクラブの皆様から義援金の寄贈や現地でのボランティア活動が行われたとのことであり、被災地域にとって、復旧・復興のための大変心強い支援になったものと思います。

福岡市としても、災害発生直後から救助活動やライフライン復旧、避難所運営支援など、様々な形での支援に全力で取り組んでまいりました。今後も、「WITH THE KYUSHU」の理念のもと、息の長い支援を続けてまいります。

福岡市では、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を創り出すことを都市経営の基本戦略として掲げ、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指したまちづくりを進めております。全国的に人口減少が進む中、福岡市では人口や観光客数、外国人入国者数が増え続けており、国内外から暮らしやすい都市と評価されるなど、元気のある、住みやすいまちとして存在感が高まっています。このように高い評価をいただいておりますのも、日頃からライオンズクラブをはじめとした皆様のご活躍に支えられているところが大きいと感じております。

そこで、さらなる成長をめざし、福岡を次のステージに飛躍させるためのチャレンジ「FUKUOKA NEXT」に取り組んでいます。

都市の供給力を高める「天神ビッグバン」や「ウォーターフロントネクスト」などが目に見える形で動き出しており、生活の質の向上においても、「共創の地域づくり」や、人生100年時代を見据えて誰もが健康で自分らしく暮らせる持続可能な社会の実現に向けた「福岡100」、さらに、熊本地震の教訓を踏まえ、最新テクノロジーも活用した「地域防災力の向上」など、様々な新しい取組みを積極的に進めてまいります。

今後とも、ライオンズクラブの皆様をはじめ、各種団体や企業、市民の皆様のお力添えを賜りながら、市政の推進に全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、福岡博多東ライオンズクラブの今後ますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝とご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



元 国際理事
GAT 統括副リーダー
不老 安正

福岡博多東ライオンズクラブ結成50周年、誠におめでとうございます。本日ここに、結成50周年記念式典が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

貴クラブは1968年6月、福岡博多ライオンズクラブのスポンサーにより結成され、以来50年、会員の皆様が相互理解の熱い奉仕の精神をもって、地域に根ざした奉仕活動を心ひとつにして積み重ねてこられました。

その中でも継続事業として特に、福祉・青少年健全育成事業に力を注がれ、小学生から高齢者まで楽しめる「ソフトバレーボール大会」の開催を始め、青少年に薬物乱用の恐ろしさを知ってもらうための「薬物乱用防止教育および街頭宣伝活動」など、次代を担う子供たちの健全育成に積極的に取り組まれています。

又、「街頭献血運動」も献血の少ない8月と2月に実施。「一日一膳運動」や「チャリティーゴルフ大会」などの募金活動も継続して実施され、環境保全や児童教育活動の資金として有意義に活用されています。

同時にグローバルな活動も展開され、「環境保存の植林事業」としてインドネシアでマングローブの植林や、「ネパール児童教育振興」として、小学校の開校、図書館の建設など、地域を越えた幅広い奉仕活動を展開しておられます。

これらの愛情あふれる地域活動に対し、多くの市民の方から、確かな評価と信頼を受けられ、なくてはならないクラブとして愛されています。その行動力と情熱に心より賛辞をお送りするとともに、貴クラブの今後の活動に大いに期待しております。

今期、ナレシュ・アガワル国際会長はライオンズの新しい100年の始まりに、モットーである「WE SERVE(われわれは奉仕する)」をテーマとされ、今こそ、行動のとき、「THE POWER OF WE(団結の力)」のもと、全員が力を合わせれば、どんな困難な問題も解決できることを世界に示そうと呼びかけておられます。ライオンズである私たちは、共に力を合わせ人々の幸せのため、未来に向かって今、行動を起こすことが強く求められています。

最後になりましたが、この50周年を契機として貴クラブがますます地域のリーダーシップを発揮され、更なる発展と皆様方のご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

祝辞



ライオンズクラブ国際協会337-A地区
ガバナー 向井 健次

初春の候、皆様におかれましていよいよご清祥のこととお慶び申し上げます。本日ここに福岡博多東ライオンズクラブ結成50周年記念式典が盛大かつ厳粛に開催されるにあたり337-A地区を代表致しまして心よりお慶び申し上げます。

貴クラブは1968年(昭和43年)6月、福岡博多ライオンズクラブのスポンサーにより結成されました。

福岡市内で15番目、日本国内では1320番目のライオンズクラブとして誕生し、それ以来50年の歴史の中で常に奉仕の精神を持ち続け、ライオニズム高揚のため日夜努力を重ねられ、多くの奉仕活動により地域に多大な貢献をされてきました。

そして、これまでの活動の中でも、貴クラブは地域環境や青少年育成事業に力を入れられてきました。昭和63年にスタートした「愛の1円募金」は今でも継続され一日一善の募金活動を行われております。この貯金缶ドネーションはインドネシアの植林やネパールの児童教育資金として重要な役割を果たされています。平成10年に30周年記念事業として始めたソフトバレーボール大会は500名を超える参加者でにぎわう事業と成長し、老若男女が競技を楽しめるイベントになりました。

今日までの50年間にわたる実践と蓄積、結成以来一貫して変わることのない、そのライオンズ精神は他のクラブの模範となることと思います。

今年度、貴クラブの会長提言は「継往開来(けいおうかいらい)」であります。この素晴らしい伝統と文化を守って行くため、新たな挑戦を行いし次なる100年へ奉仕活動を行ってください。まさに、この50年の歴史の中で培われた「奉仕の精神」は強固でゆるぎないものであると思います。この誇り高い伝統を守りつつ、皆様の知恵やアイデアで新たな、そして地域社会にマッチした、「新たな奉仕」を探索されることを期待しています。今後も尚一層、奉仕活動や会員増強にご尽力賜りますようお願い致します。

最後になりましたが、福岡博多東ライオンズクラブが60周年を目指して更なる飛躍をされんことを、そして会員皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



スポンサークラブ
福岡博多ライオンズクラブ
会 長 平河 光広

本日ここに福岡博多東ライオンズクラブ結成50周年の記念式典が盛大かつ厳粛に開催されるにあたり、スポンサークラブの福岡博多ライオンズクラブ会員を代表致しまして心よりお祝い申し上げます。

1968年6月より一口に50年と申しますが、経済の好不況をはじめとして幾多の試練を乗り越えて連綿と活動が続けてこられました事は、会員の皆様様の努力の賜物でございます。

この間に福岡那の津ライオンズクラブ、福岡博多シティライオンズクラブ、福岡博多祇園ライオンズクラブ、福岡那の香ライオンズクラブのエクステンションを行い数々の素晴らしい奉仕活動が続けてこられました。青少年育成と地域貢献事業の一環としてソフトバレーボール大会を継続的に主催され、世界環境保全事業の一環としてインドネシアのパタム島でマングローブの植林事業を行い、ネパール児童教育支援にも力を注がれ、世界の青少年育成に尽力されてあります。このような国際社会に貢献する活動は他クラブの手本となるものであります。

今回の50周年を一つの節目として、貴クラブと一層の友好を深めながらライオニズム高揚に邁進致しましょう。

最後になりましたが、福岡博多東ライオンズクラブの益々のご発展と会員皆様のご健勝を心より祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

祝辞



国際協会337-A地区1R5Z
北九州帆柱ライオンズクラブ
会 長 岸原 庸夫

梅花馥郁として訪春の足音が聞こえるこの佳日。貴クラブが結成50周年記念式典を迎えられたことに、北九州帆柱ライオンズクラブを代表して心よりお祝い申し上げます。

貴クラブとの友好クラブ締結は、当時の小松原会長と貴クラブ葛西会長がYCE留学生を両クラブでホストした縁で意気投合し、我クラブ結成25周年記念事業として、1989年4月14日に始まりました。爾来28年、毎年二月には合同例会として相互訪問を行い、友好の絆を深めてまいりました。

本年は、貴クラブ主催の「チャリティーゴルフ」参加や、我がクラブの「観月例会」にゲストとして一色会長と有志の皆様が多数ご参加をいただくなど、「厚誼永遠」友好の輪が広がっております。

貴クラブの特出すべきアクティビティは、平成9年に「ネパールの子供たちのための教育支援」が計画され、平成10年にはネパール・ニルマルボカリ村に「学校の建設」が始まり、小学校・中学校へと学校教育支援が進んでいます。

またその事業を継続するためにNPO法人福岡ネパール児童教育振興会を創設。一般市民等への呼びかけ等もあって、貴クラブからの10年の資金支援期間以降も自主運営できるための体制を確立されるとともに、村の経済自立をめざしてネパールにコーヒー栽培普及事業を進められています。そして、この「コーヒープロジェクト」は、平成17年には独立行政法人国際協力機構(JICA)から草の根技術支援事業として認可され事業は着実に進んでいます。

また、結成40周年事業として平成20年よりインドネシアのパタム島でのマングローブの植樹事業「NPO法人ライオンズの森プロジェクト」が進められています。この自然環境の保全活動は、ライオンズクラブの奉仕活動の大きな目標です。

このように貴クラブのアクティビティは、一過性でないグローバルな目標設定と見識の高い事業遂行であり、私たち「We Serve」の範とすべき事業であります。私たちは、貴クラブの活動に心から敬意を表するとともに、これからも私たちの範となるLC活動を続けられんことを切にお願い申し上げます。

福岡博多東ライオンズクラブの益々のご発展とクラブ会員並びにご家族の皆様方のご健勝を心からお祈りいたしましてご祝辞とさせていただきます。

祝辞



福岡ニルマルポカリ学校
ネパール連邦民主共和国カスキ郡ポカラ市 21 区
校長 キム ラル バンダリ

福岡博多東ライオンズクラブ 50 周年、心からお慶び申し上げます。

私は福岡ニルマルポカリ学校の校長 キム ラル バンダリと申します。博多東ライオンズクラブ 50 周年記念式典にお招きいただき、誠に有難うございます。

1997 年夏、福岡博多東ライオンズクラブから一人の会員が、福岡在住のネパール人留学生を連れて、ニルマルポカリ村のカマル・モハン・パウデル村長を訪ねていただきました。

この頃のカマル氏は、貧しいニルマルポカリ村の村長として、村人、そして将来を託される子どもたちをどのように指導していくか、真剣に考えていた時でした。

その福岡博多東ライオンズクラブの会員は、後に福岡市長に就任された山崎広太郎様でした。話し合いの中で、「日本のライオンズとして、村人のために協力したいがどのような支援がよいか」との問かけがありました。村長は何度も考えた末、子供たちの教育環境づくりをお願いしたそうです。

その後、山崎広太郎様に続き今日まで繋いでくださいましたのは前在福岡ネパール名誉総領事、福岡ネパール児童教育振興会の理事長である篠隈光彦様であります。

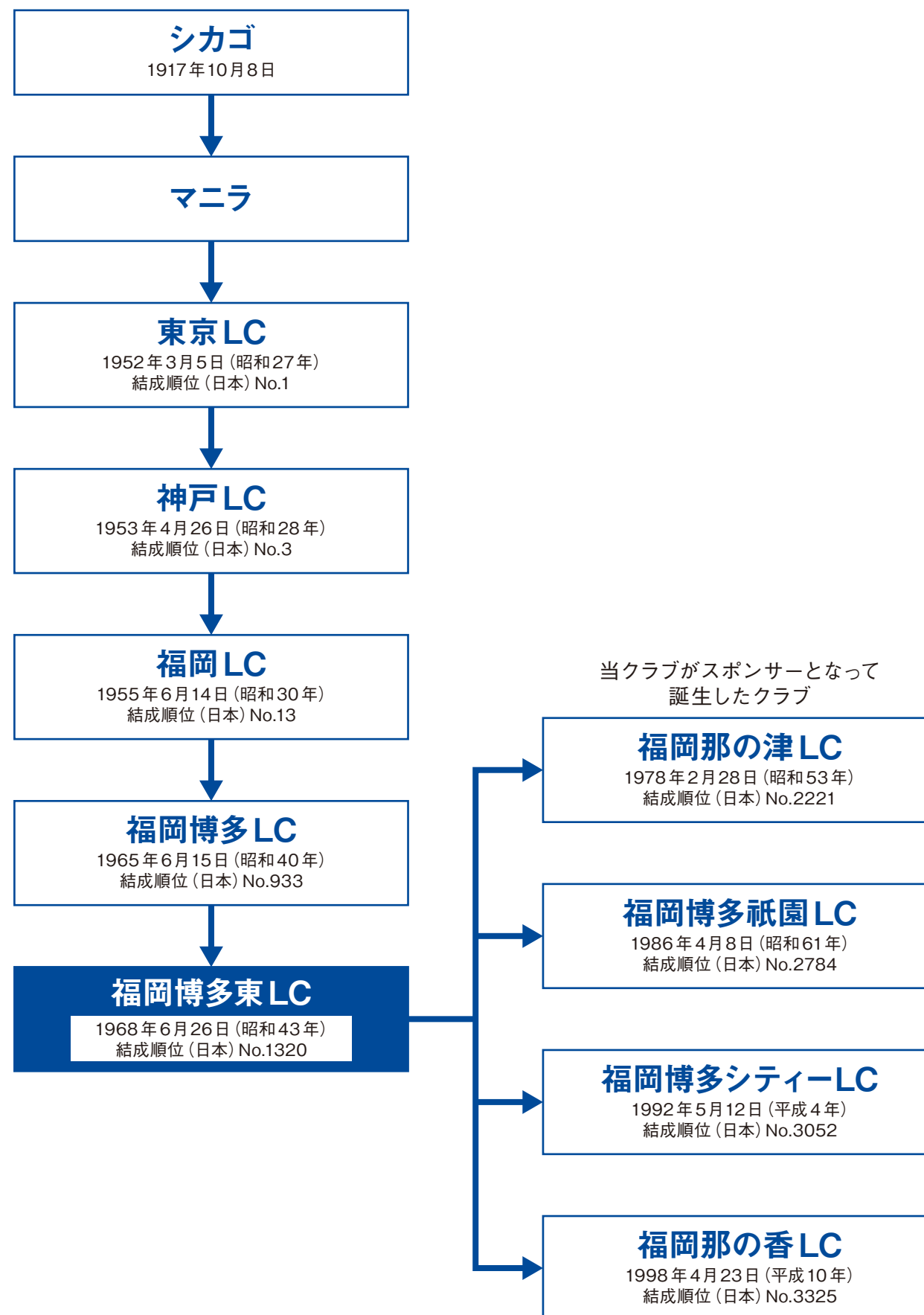
1999 年 7 月、小学校の開校に始まり、今では幼稚園から中学・高校までの学生 300 人が元気に学び、卒業生の中には日本やインドへ留学生として巣立った学生、母国ネパールにおいて様々な分野で働いている学生もいます。交流が始まって 18 年目となりますが、この間、福岡のライオンズ 10 クラブのメンバーをはじめ、日本から約 300 名の方にこの学校を訪問いただきました。ライオンズクラブの精神が、福岡の多くのクラブメンバーの皆様に浸透し、国境を越えて遠いネパールの村まで届けていただいたことに深く感銘を受けております。

私達の使命は、学校経営を自立させることです。そのために 2003 年からコーヒーの栽培に着手致しました。このことも、福岡のライオンズメンバーのご指導によるものですが、生産者組合も設立し生産量も増え、既に日本市場への輸出もさせて頂いております。

記憶に新しい 2015 年のネパール大地震では学校もダメージを受けましたが、すみやかな福岡の皆様のご支援により改修工事も完了しました。有難うございました。

更なる博多東ライオンズクラブと各福岡にあるライオンズクラブのご発展と成功を祈念しながら御礼申し上げます。

結成の歴史とエクステンション



結成50周年記念アクティビティ

50周年記念緊急支援アクティビティ

1) 九州北部豪雨被害復旧支援金を朝倉ライオンズクラブに寄贈(100万円)

2017年8月16日に朝倉市役所にて朝倉LCを通じて朝倉市へ支援金を届けました。



(左より) 森田俊介朝倉市長、L. 瓜生茂広(朝倉LC会長)、当クラブのL. 一色、L. 篠隈、L. 山崎

2) 九州北部豪雨被害復旧支援 博多座チャリティー公演

2017年11月14日 「夫婦漫才」 於：博多座



50周年記念新規アクティビティ

1) アイランドシティ(福岡市東区)ライオンズの森に記念植樹(50万円)

2017年11月14日 於：アイランドシティ中央公園 ライオンズの森



2) ドローンを用いたWe Serveの在り方の探索・研究の調査(50万円)

ドローンを使用した奉仕活動の在り方を幅広く研究するため「研究委員会」を発足させました。



ドローン研究委員会の第一回会議風景



ドローンの操縦を体験してみました。操縦するのはL. 長野作郎。その右は研究委員長のL. 綾香正博



ドローンから、操縦者たちを撮影した画像(高度100メートルから撮影)

50周年記念継続アクティビティ

1) ネパールの児童教育の支援

- ・福岡ニルマルポカリ学校の衛生施設の改善(150万円)
- ・福岡ニルマルポカリ学校職員の退職年金基金の充実(100万円)
- ・福岡ニルマルポカリ学校卒業生の留学生奨学基金の充実(100万円)
- ・結成50周年プレ事業として「ネパールの子供たちとライオンズクラブ展」を実施
2017年4月6日～11日 於：福岡アジア美術館



2) 福岡市金印ソフトバレーボール大会の運営(65万円)



当クラブ主催の福岡市金印ライオンズカップ・ソフトバレーボール大会で授与する優勝カップを最高級品である「オニキスカップ」に一新しました



3) 薬物乱用防止啓発活動(40万円)

2017年11月5日 於：福岡大学 七隈祭



4) 環境保全植林事業



5) 献血運動



若い人も協力してくれました

6) LCIF 基金への献金(当クラブと個人献金で総額10,000ドル)

福岡博多東ライオンズクラブ結成50周年を迎えて



福岡博多東ライオンズクラブ終身会員
大会名誉会長（チャーターメンバー）

長野 作郎

春意動き梅の香漂う佳い日に記念式典を迎えました。結成当時や30周年記念大会などの思い出を記して見ましょう。

顧みますと、認証状伝達式（チャーターナイト）が昭和43年10月10日九電記念体育館で開催されましたが、当日、新宮大三郎初代会長のご挨拶は「ようやく歩き習いの最中ですが清新活発な気概を持って力強く、逞しいライオンでの遠くかつ高い理想に向ってひたすらに邁進したい覚悟であります」と述べられ、また川原俊夫初代幹事は『結成式の準備委員長として37名のチャーターメンバーとその後の入会者合計75名をもって幼弱な若いクラブの感がありますが「山椒は小粒でぴりりと辛い」のたとえのとおり、友愛と寛容の精神に満ちた奉仕の熱意にもえたメンバーの集まりであると確信しております』と述べられました。

このクラブの名称ですが、最初は「福岡東クラブ」の予定でしたが、「博多」の名称を残したいという多くの意見、とりわけ風格をそなえた生粋の博多商人の面目躍如な新宮会長の熱意が尊重されて「福岡博多東クラブ」に決定しました。

因みに「福岡」と「博多」の二本立ての福岡市の歴史によりますと、実は福岡市内に「博多」という正式な地名は無かったのですが、昭和47年に福岡市が政令都市に昇格した際に区制が敷かれて始めて「博多区」が誕生しました。

それまでの「博多」という名称は福岡の俗稱であると言えそうです。

しかし慶長以前は「博多」の地名が存在し、「福岡」

という地名は無く、江戸時代になって「福岡」と「博多」の名称が市内に流れる那珂川で区分されており、明治以后は「福岡」になっております。他の都市にはこの様な例は無いようです。

さて厳粛な式典につづいての祝宴では、芸どころ博多の土地っ子が日頃の蘊蓄を傾けて絢爛で粋な芸能を披露しております。

以来、わがライオンズクラブでは融和と親睦、極めて庶民的で家庭的な雰囲気の中に、活発と和やかさを伝統としております。

つぎに今日までの周年行事の中の二、三、について述べましょう。

チャーターナイトの市民の森のブロンズ獅子像は市民の関心とライオンズクラブの認識を高め、10周年記念の市美術館への「母子像」は（安永良徳作）は知的レベルの高さをアピールし、20周年記念の中洲遊歩道のブロンズ像（高倉準一作）は庶民性を発揮しております。

30周年記念（大会実行委員長を務め）はその記念誌の表紙に本クラブの唯一の故ガバナーL.杉原一志の年次大会を記念して、博多大丸デパートの前にベンチに座ったブロンズ像（黒川晃彦作）の寄贈像が印刷されています。

主な行事として、ネパールの未就学の子供達のため学校建設をと、L.山崎広太郎 L.篠隈光彦が提唱され児童教育振興会を設立し年次計画のもと着々と成果を上げております。

人口7,000人のニルマルポカリ村に建築した学校は、

幼稚園から小、中学生の他平成18年からは高校生のために増築されております。

しかしこの学校支援事業の援助は当初10年と定めておりましたので（現在はなお留学生の支援などを行う）学校運営の自立のための手段が求められました。

当時市長のL.山崎広太郎を中心に検討の結果「ヒマラヤコーヒー」の栽培、育成を行うこととなりました。ニルマルポカリ村の産業として導入し、その後コーヒープロジェクトが具体的にスタートしKYOWA COFFEE社との連携が出来て学校運営の自立につながっております。

現在「ヒマラヤン アラビカ」の商品名で市内でも販売されております。

以上、学校建設から事業の方策を考えると、

・建築のための資金

・支援を受ける地元の人々が如何に理解し社会に対しての意識の高揚

・意識の改善による自立をどのようにするか

まさにライオンズクラブのモットーである奉仕することによって支援し、理解され、達成されると信じております。

私共の使命と社会的影響の大きさを再認識致します。

私は今日まで各界のメンバーに接して、ご厚誼をいただきながら、つくづく感じることは人は間違えな勤労と十分な休息を持つことが生活の活力の源であり、さらに年齢と共に豊かな深い経験から発する情熱を持つことが若さを保つ秘訣であると思います。



チャーターナイト記念として市民の森（油山）にブロンズ像「獅子像」を寄贈



10周年記念として福岡那の津LCと共同で福岡市美術館にブロンズ像「母子像」を寄贈



15周年記念として平和台競技場に「競技時計台」を寄贈



20周年記念として福岡那の津LCと共同で中洲遊歩道にブロンズ像「微風」を寄贈



25周年記念として福岡空港駅にブロンズ彫刻「輝樹」を寄贈



当クラブでただ一人ガバナーになられたL.杉原一志を記念して博多大丸前にブロンズ像「サックスを吹く人」を寄贈（現在は福岡市役所横に移設）

46期～49期の主な行事の紹介

46期

2013.7▶2014.6

(平成25.7～26.6)

- 2013.8 納涼例会
- 2013.12 クリスマス例会
- 2013.12 博多駅前清掃
- 2014.2 街頭献血
- 2014.2 第17回ソフトバレーボール大会
- 2014.4 博多座「武田鉄矢・前川清ショー」
- 2014.5 婦人部旅行 佐賀地方
- 2014.11 星野村労力奉仕

会長／大沼繁雄
幹事／水城昭正
会計／山本政人
期末会員数／40名

台北市光華獅子會 授證38周年記念慶典に参加して 第46期幹事 水城 昭正

2013年の式典参加は9月12日より14日と二泊三日の旅。

大沼会長以下、13名での訪問である。台北桃園飛行場に着き、いつものことながら熱烈歓迎を受け、昼食会場へ。香港の香港鑪峯獅子会メンバー6名と落ち合い大宴会が始まった。

いつものことながら会長交代式典は挨拶2時間、食事2時間の長丁場だ。そして最後は新任会長を先頭に獅子舞、わがクラブの炭鉦節でお開きになる。翌日は4時30分に起きて「金門島」見学に。ボンパルプロペラ機は松山空港を予定通り飛び立ち1時間で着陸。中国の厦門からはもう目の前の「金門島」は中国軍からの銃弾を雨、霰と受けながら台湾軍が死守したことで知られている。皮肉にもその時の残骸を利用した鍛冶屋、包丁などが「金門島」の名産品となった。

あっという間の3日間、12月はこちらが接待する立場。いまから準備して悔いのないようにしたいと思いながら機中の人に。



48期

2015.7▶2016.6

(平成27.7～28.6)

- 2015.7 全国一斉 NO DRUG KNOW DRUG 運動に参加
- 2015.8 危険ドラッグ夜回り隊街頭啓発活動
- 2015.8 街頭献血
- 2016.1 薬物乱用防止啓発講演会 (博多女子中学校)
- 2016.2 街頭献血
- 2016.2 第19回ソフトバレーボール大会
- 2016.3 婦人部旅行 出雲大社
- 2016.4 薬物乱用防止啓発講演会 (西鉄本社)
- 2016.5 前川清ショー

会長／山本政人
幹事／松尾 剛
会計／入江勇臣
期末会員数／42名

婦人部旅行 出雲大社

恒例の婦人部旅行は「平成の大遷宮をされた出雲大社」にお詣りに行ってきました。

縁結びの神様として知られる大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）をおまつりする出雲大社の国宝である御本殿は1744年に造営され、これまで3度の遷宮が行われてきましたが、平成20年から60年ぶりとなる「平成の大遷宮」が行われました。

この平成の大遷宮を行うため「出雲大社御遷宮奉賛会」を結成し、その会長には日本経済団体連合会会長が就任し、御遷宮奉仕の奉賛を全国の皆々様に呼び掛けられました。

当クラブのL.山崎広太郎は九州代表の理事として、この御遷宮事業に大きく貢献されました。そのようなご縁もあってこの度、当クラブの婦人部を中心に23名でお詣りに行ってきました。



47期

2014.7▶2015.6

(平成26.7～27.6)

- 2014.7 YCE受け入れ
- 2014.8 街頭献血
- 2014.11 婦人部旅行 阿蘇地方
- 2014.11 北九州帆柱LC 結成50周年式典に出席
- 2015.2 第18回ソフトバレーボール大会
- 2015.3 薬物乱用防止啓発活動
- 2015.4. ネパール大地震による福岡ニルマルポカリ学校の被害支援
- 2015.6 薬物乱用防止啓発活動(夜回り隊)

会長／乗本成人
幹事／秋好正成
会計／女賀信治
期末会員数／39名

YCE派遣生受け入れ

YCEとは海外のライオンズクラブと青少年を交換しあって国際交流を推進する活動です。今年度はアメリカ・カリフォルニアからブレンダ サエターンさんを当クラブで受け入れ、山笠見学、企業訪問、鮮魚市場見学、山荘でのバーベキュー、茶会など幅広く日本文化を体験していただき、国際交流を深めました。写真は茶室洗心亭(中央区天神のビルのなかにあります)での体験お茶会の一コマです。亭主はL.児嶋峻司、白シャツ姿はホストファミリーを勤められたL.女賀信治です。



49期

2016.7▶2017.6

(平成28.7～29.6)

- 2016.9 台北市光華LC記念式典 訪問
- 2016.10 薬物乱用防止啓発講演会 (飯原小学校)
- 2017.2 街頭献血
- 2017.2 第20回記念ソフトバレーボール大会
- 2017.3 ネパール留学生が卒業
- 2017.3 婦人部旅行 長崎地方
- 2017.4 薬物乱用防止啓発講演会 (西鉄本社)
- 2017.4 ネパールの子供たちとライオンズ展 (福岡アジア美術館)

会長／柴田擴志
幹事／女賀信治
会計／水城昭正
期末会員数／40名

街頭献血

当クラブでは毎年献血の少ない2月と8月に街頭に立って献血を呼びかけています。この活動は当クラブの代表的な労力アクティビティのひとつです。グリーンジャンパー姿の呼びかけ活動には市民の方々から高い評価をいただいています。

また会員の所属企業や会員自らが献血に積極的に参加しています。特に九電産業株式会社のみなさまには永年にわたって格段のご協力をいただいています。

今後は他のクラブの献血活動を参考に、どうすれば大勢の皆さんを集めるか、どうすれば効率の良い献血活動ができるかなどについて、検討していきます。



献血にご協力いただいている九電産業株式会社のみなさま

継続アクティビティ

1) ネパールの児童教育支援

ネパールに縁を結び20年



福岡博多東ライオンズクラブ
幹事
L. 篠隈 光彦
特定非営利活動法人
福岡・ネパール児童教育
振興会代表

晴れて結成50周年を迎えた福岡博多東ライオンズクラブの所属会員として、喜びをかみしめながらネパールとの縁を振り返ってみたいと思います。

私のライオン歴は結成15周年での入会ですから、今35年の在籍となりました。この間、チャーターメンバーのL長野作郎をはじめとする先輩ライオンの薫陶を受け、加えて例会ごとに歌うライオンズクラブの歌に私の生き方が示唆されました。クラブの歌は作詞家藤浦洸先生、作曲は小関裕而先生によるものですが、広い世界を一つに結ぼう、そして世界の平和を築こうというものです。

35年間、この歌に触れ洗脳されたのでありましょいか、福岡在住のネパール人留学生との出会いから、世界の最貧国と言われていたネパールの子供達の為に、教育環境を整備しようと少なくとも恵まれている日本のライオンが国際人道支援の理念に立ち、我がクラブ30周年の記念事業として学校建設に着手致しました。

同じ時期に我がクラブがスポンサーとなり、結成された女性クラブ、福岡那の香ライオンズクラブも共同事業者として力を添えていただき、以来20年の歴史を刻んで参りました。

事業は継続されなければなりません。その為に、NPO法人福岡・ネパール児童教育振興会を立ち上げ、有難いことに私が代表理事に任命され今日に至っています。

それぞれの地名をとって「福岡・ニルマルボカリ学校」と学校名を得て、1999年7月に開校し、希望に瞳を輝かせる子供達117名を受け入れてスタート致しました。その後、中学、高校の部まで校舎を増築し、現在約300名の子供達が学ぶ、地域では高い評価を受ける学校となりました。

特記すべきは、一連の事業を進めるにあたり、多くのライオンズクラブ、団体、そして民間個人のご支援を得て今日があることであります。

LCIF国際財団による校舎建設費補助に始まり、337A地区4Rのブラザークラブ、2Rのブラザークラブはもとより、A地区の多くのクラブのご協力を賜りました。本来ならば、クラブ名を表し御礼を申し上げなければなりません、誌面の都合上お許し賜ります。

また、福岡市私立幼稚園連盟の子供達による9年間の募金活動や、有志市民1700人のNPO法人会員の10年に亘る会費支援でのご協力に対し、心から感謝申し上げます。

その中で2015年4月25日に発生したネパール大地震で被災した校舎の復旧のために即座に手を差しのべていただいた337-A地区26クラブのご支援により改修工事も速やかに完了し、現地の子供達とその家族にこの上ない安心を与えました。

雄大なヒマラヤを望む海拔1000mのこの地域の住民が、日本、福岡に寄せる信頼は限りなく高く、このような両国の関わり方こそ、平和へのアプロー



大地震で被災した校舎の復旧



改修工事が完成した校舎と子ども達

チでありライオンズクラブの歌に示される理念であると信じます。

20年前、私達が初めて現地を訪れたときに誕生した子供がこの学校を卒業し、20歳になった今、福岡に留学生として学んでいます。ラミチャネ・ディルマヤという名の可愛い女学生であります。私達は、この学校の卒業生が日本留学を目指せるように「福岡ニルマルボカリ学校留学生奨学基金」を創設いたしました。これからが楽しみです。

今一つ、2003年この地域の産業振興策として、コーヒー栽培事業に着手致しました。元来、紅茶文化のネパールですが、将来の輸出産品としてのコーヒー作りであります。

337-A地区2R福岡鶴城ライオンズクラブのメンバーの協力により具体化しJICAの事業支援も導入することができました。時の経過を受けて、日本の市場にネパールコーヒーが流通するようになりまし



福岡ニルマルボカリ学校卒業生で留学生基金制度の第一号、ラミチャネ・ディルマヤさん(左)、卒業生で福岡の留学生であるアショク・ボウデルさん



コーヒーの栽培

た。また、第99回ライオンズクラブ世界大会の開催時の記念品としてネパールコーヒー5000個を採用頂いたことは当事者として感激でありました。

また、ネパール政府農業省はニルマルボカリ村を中心とするこの地域をコーヒー栽培のモデル地区と取り上げ「総理農業現代化ポケットプロジェクト」の対象地と認め、補助金を支給してくれました。

このような20年のネパール活動は私の人生の3割の時を占めることとなり、意義深い思い出となる事でしょう。この体験をさせていただいた我がクラブと同僚会員の皆様に心から感謝を申し上げて結びといたします。

継続アクティビティ

2) 福岡市金印ライオンズカップ ソフトバレーボール大会の主催



337-A 地区4R・3Z ZC
福岡博多東ライオンズクラブ
L.松尾 剛
福岡県ソフトバレーボール連盟
理事長

福岡博多東ライオンズクラブでは、結成30周年記念事業の一環として、1つは、青少年育成事業、1つは、高齢者の健康維持を目的として、ソフトバレーボール大会を20年間継続事業として行ってきました。

ソフトバレーボールは、日本バレーボール連盟が、1988年「いつでも、どこでも、だれでも」をテーマに考案したニュースポーツです。

このソフトバレーボールは、柔らかいゴム製のボールを使い、革バレーの6人制、9人制バレーボールの中から、それぞれの特徴あるルールを合わせて競技ルールが決められ、プレーヤーが楽しく競技できるようにつくられています。

このソフトバレーボールは、年代別、男女別、男女混合などの組み合わせでチーム構成をして、それぞれの力量に合ったチーム同志で戦う楽しいものです。

当クラブではその中から青少年育成事業として、特に小学生4年生以下のクラスと、親子でチームを作って戦うファミリー部門は力を入れています。

最近の子供は、部屋でゲームに夢中になり、孤独な生活をする場面が多いと聞きます。

そのような子供たちに、スポーツを通じて、楽しい仲間づくりをして人とのコミュニケーションを図れるような人間に育っていくことが社会的に大切なことだと思います。

また、ファミリーの部門では、親と子が同じ話題の中で、親子のコミュニケーションを図る絶好の機会であり、他にない一面を持っています。

このような特徴を持つソフトバレーボールは、今では小学校の体育の必須科目になっています。

また、高齢者の部門では、60歳以上の男女混合チーム、60歳以上の女性ばかりでチーム構成されるゴールドと呼ばれるクラスにも注目しています。

60歳から80歳代までの高齢者の皆さんがプレーされる姿は、生き生きとして健康そのものであり、医療、福祉関係費用の低減にも寄与しているものと思います。

このような意義ある奉仕活動を福岡博多東ライオンズクラブの誇りある事業として、今後も続けて行きたいと考えています。



継続アクティビティ

3) 薬物乱用防止啓発活動



福岡博多東ライオンズクラブ
薬物乱用防止委員会
委員長
L.中島 英之

ちょっとした好奇心から、甘い誘いに一回だけならばと軽い気持ちで手を出してしまっただけで終わらずにズルズルと続け身も心もズタズタになり、その後の人生を台無しにしてしまう例は少なくない。特に青少年の場合は「友人から勧められた」「断れば仲間ハズレになる」の心理から薬物に手を出すケースは多い。また最近の傾向として、中高年にも広がりを見せているが、覚せい剤などの薬物は暴力団の財源になる場合が多く社会悪の原因にもなっている。中高年は一般に社会的にも責任のある立場になりストレスも多くなり、回避のためつい薬物の誘いに乗り出すことになる。口も堅いので暴力団の格好の餌食になってしまう。

福岡博多東ライオンズクラブでは、青少年の健全育成及び薬物による社会悪の根絶を目指して、薬物乱用防止啓発活動を重点事業として位置付け、創立50周年記念事業としても取り組んでいる。

- 当クラブの薬物乱用防止啓発活動は
- ①街頭で市民へ呼びかけによる啓発活動
 - ②学校、企業などでの講演活動がある

①では、平成29年7月には、全国政令都市の薬剤師会が主催で、全国一斉に同時刻に各政令都市で展開する「NO Drug Know Drug 運動」へ共催として参加し、博多駅前でおおくの乗降客にチラシを配り呼びかけを行った。また11月には福岡大学の大学祭に参加して、大きな会場の中で、今、大学生の間で大麻乱用が流行の兆しを見せている現状に、多くの学生に呼びかけを行った。

②では、同年4月には、西鉄グループの新入社員

330人の研修会で、同社の人事部の方々と共に、社会人として薬物に対する対応、考え方、責任の大きさについて講演した。緊張して聞くフレッシュマン達の表情が印象的だった。同年10月には、50周年記念事業として福岡県立筑紫高校で全校生徒1,200人に対して薬物乱用の現状と恐ろしさ及び誘惑にあった時の対応について講義した。校長と生徒会長から熱い感謝の言葉をいただいた。

薬物乱用防止啓発活動は青少年の健全育成と社会悪根絶のために大切な奉仕活動である。

今後も当クラブは活動を続けていきたい。



西鉄グループ新入社員研修会 福岡県立筑紫高校講習会



博多駅前街頭活動



危険ドラッグ乱用防止夜回り隊

継続アクティビティ

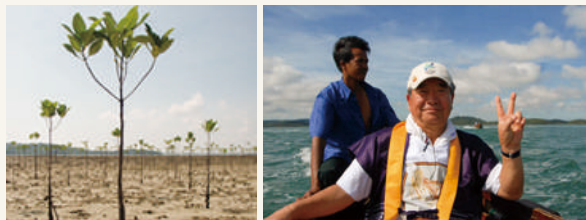
4) 地球環境保全のための植林活動



福岡博多東ライオンズクラブ
会員理事
L.山崎 広太郎
特定非営利活動法人
ライオンズの森プロジェクト
理事長

わがクラブの40周年記念事業として、10年間にわたってインドネシアバタム島周辺の干潟3ヘクタールを「ライオンズの森」に設定し、現地バタム市の三つのライオンズクラブとの連携の下、マングローブ植林を行って参りました。

干潟の植林は必ずしも成功したとは言えず、2m間隔で植えたものが写真のとおり、まばらに根付くという結果でありました。



マングローブ植林

私どもは、3ヘクタールの植林を完了した現時点においてこの活動をいったん休止し、今後の取り組みを再考することに致しました。

幸い、私達の活動の主旨は、現地ライオンズクラブの友人たちに浸透し、また、インドネシア西地区のガバナーの視察もあって、今後も自主的なマングローブ植林は続けられることになりました。私達は今後も、この結びつきを大切にしていきたいと考えております。

又、植林事業の継続と幅広い支援を仰ぐ目的で設立した「NPO法人 ライオンズの森プロジェクト」は継続し、さらに有意義な活動につないで行きたいと考えております。

結成50周年を迎えた福岡博多東ライオンズクラブに、共同植林事業を行ってきた、インドネシアバタム市の三つのライオンズクラブから合同で10,000,000ルピア（日本円で83,000円）をドネーションいただきました。



2017.11.14.ライオンズの森植樹祭

継続アクティビティ

5) 献血運動



337-A地区4R・3Z ZC
福岡博多東ライオンズクラブ
L.松尾 剛

ライオンズクラブでは、献血、献眼、献腎の3献運動を奉仕活動の一環として行われています。

福岡博多東ライオンズクラブでも、合同事業として夏、冬の2回街頭献血運動を行っています。

街頭献血運動は、福岡市の中心地で行われますが、夏の暑い日、冬の寒い日に街頭を歩く人も意外と少なく、その中から献血に協力してくれる献血者を確保するには並大抵の努力ではできないのが現実です。

一日頑張っても数10人程度の献血しかできないことも有ります。

337-A地区では、以前から伊都福岡ライオンズクラブが、大々的に献血運動をされていることを聞き、一度見学させていただきました。

福岡市西区にある福岡舞鶴高等学校の校庭に、7台の献血車が並び、10数張りのテントが張られて受付をされ、グラウンド中に献血者の車が一杯になり、1日1,000名程度の申込があり、700人以上の献血が行われているということでした。

高校生も120名程度が献血の登録をされているということでしたが、学校の理解もあり30数年間行われているとのことでした。

最初は、各会員が土地の会社を訪問し、また地方の自治会や近所の皆様に声掛けをして献血者を集め、大変な苦勞があったようですが、今ではこの地区の年間行事のごとく根付いていました。

これは大変な奉仕活動ではありますが、最も参

考にしていきたい運動ではないでしょうか？

福岡博多東ライオンズクラブでもこれを一つの参考にして、どうすれば人の集まる場所で効率の良い献血活動ができるか、検討する材料にしたいと考えています。



当クラブでは毎年2月と8月に福岡市天神の福岡信用金庫前で献血の街頭呼びかけを行っています



伊都福岡ライオンズクラブの献血活動風景

物故会員 一覧表

L. 新宮 大三郎

昭和45年2月2日逝去
昭和31年 福岡LCに入会
昭和43年6月 福岡博多東LC チャーターメンバー
昭和43年7月 初代会長

L. 花田 歆一

昭和55年5月12日逝去
昭和53年11月 入会

L. 戸田 秀市

平成元年3月8日逝去
昭和61年11月 入会

L. 末岡 満也

平成2年8月20日逝去
昭和55年10月 入会

L. 木村 末武

平成4年8月16日逝去
昭和43年3月 入会

L. 徳島 喜太郎

平成6年12月26日逝去
昭和36年7月 福岡LCに入会
昭和43年6月 福岡博多東LC チャーターメンバー
昭和45年7月 第3代会長

L. 高力 正男

平成12年8月28日逝去
昭和54年1月 入会

L. 大島 明

平成15年4月16日逝去
昭和48年12月 入会
平成元年 第22代会長
平成5年 ZC

L. 井上 辰次

平成20年4月7日逝去
昭和46年7月 入会

L. 高原 弘

昭和47年1月4日逝去
昭和43年9月 入会

L. 川原 俊夫

昭和55年7月17日逝去
昭和40年3月 福岡博多LCに入会
昭和43年6月 福岡博多東LC チャーターメンバー
昭和46年7月 第4代会長

L. 藤家 輝雄

平成2年2月10日逝去
昭和55年9月 入会

L. 待鳥 初民

平成3年10月19日逝去
昭和41年5月 福岡博多LCに入会
昭和43年6月 福岡博多東LC チャーターメンバー

L. 杉原 一志

平成5年3月13日逝去
昭和41年3月 福岡博多LCに入会
昭和43年6月 福岡博多東LC チャーターメンバー
昭和55年7月 第13代会長
平成3年7月 337-A地区ガバナー

L. 高橋 文一

平成8年5月21日逝去
昭和43年9月 入会
昭和49年7月 第7代会長

L. 高崎 知臣

平成12年9月12日逝去
昭和53年10月 入会
平成6年 第27代会長

L. 片山 一郎

平成15年5月11日逝去
昭和54年9月 入会
平成4年 第24代会長
平成4年 ZC
平成12年 RC

L. 吉松 慶二

平成23年4月29日逝去
平成6年4月 入会

L. 草野 孫文

昭和52年10月5日逝去
昭和51年3月 入会

L. 大石 辨之助

昭和58年9月22日逝去
昭和53年10月 入会

L. 鳴川 博己

平成2年3月16日逝去
昭和42年12月 福岡博多LCに入会
昭和43年6月 福岡博多東LC チャーターメンバー
昭和61年7月 第19代会長

L. 八尋 明

平成4年3月11日逝去
昭和49年8月 入会

L. 津村 寿

平成6年4月19日逝去
昭和45年7月 入会
昭和59年7月 第17代会長

L. 稲尾 武義

平成11年3月22日逝去
昭和42年12月 入会
昭和43年6月 福岡博多東LC チャーターメンバー
昭和52年7月 第10代会長
昭和61年 ZC

L. 高野 博義

平成13年7月9日逝去
昭和61年12月 入会

L. 古川 弥作

平成18年2月2日逝去
昭和47年11月 入会
昭和62年 第20代会長

L. 西田 光徳

平成23年11月25日逝去
平成5年2月 入会
平成17年 第38代会長

歴代三役 一覧表

代	年 度	会 長	幹 事	会 計
1	1968年（昭和43）	新 宮 大三郎	川 原 俊 夫	池 田 国 次
2	1969年（昭和44）	樋 口 保三郎	杉 政 穂	瀬 戸 晃
3	1970年（昭和45）	徳 島 喜太郎	渡 辺 精 二	松 本 清 陸
4	1971年（昭和46）	川 原 俊 夫	杉 政 穂	壺 岐 俊 彦
5	1972年（昭和47）	浄 見 晴 夫	杉 原 一 志	稲 尾 武 義
6	1973年（昭和48）	我 部 政 憲	藤 野 大 介	坂 田 健太郎
7	1974年（昭和49）	高 橋 文 一	瀬 戸 晃	磯 野 利兵衛
8	1975年（昭和50）	杉 政 穂	河 辺 忠 重	遠 藤 一 夫
9	1976年（昭和51）	松 本 清 陸	河 井 研一郎	待 鳥 初 民
10	1977年（昭和52）	稲 尾 武 義	椿 秀 夫	只 左 英 三
11	1978年（昭和53）	田 中 俊 文	宮 崎 知 之	鴨 川 博 巳
12	1979年（昭和54）	中 村 常 一	池 田 博	古 川 弥 作
13	1980年（昭和55）	杉 原 一 志	片 山 一 郎	横 尾 和 雄
14	1981年（昭和56）	木 村 末 武	満 見 正	高 木 斐 夫
15	1982年（昭和57）	島 田 昌 幸	大 島 明	高 嶋 利 男
16	1983年（昭和58）	阿 部 博	佐 藤 政 利	八 尋 明
17	1984年（昭和59）	津 村 寿	宮 副 勝 彦	早 川 忠
18	1985年（昭和60）	馬 場 清	藤 木 英 明	瀬戸口 寿 雄
19	1986年（昭和61）	鳴 川 博 巳	大 島 明	角 鷹 雄
20	1987年（昭和62）	古 川 弥 作	杉 正 道	平 井 喜久哉
21	1988年（昭和63）	葛 西 昇	日 野 守 隆	横 山 直 登
22	1989年（平成元年）	大 島 明	中 尾 透	中 嶋 紘 一
23	1990年（平成2）	角 鷹 雄	藤 原 正 記	高 崎 知 臣
24	1991年（平成3）	片 山 一 郎	福 本 正二郎	河原崎 薫
25	1992年（平成4）	平 井 喜久哉	篠 隈 光 彦	大 石 理
26	1993年（平成5）	宮 副 勝 彦	中 島 祥 光	長 友 隆 典
27	1994年（平成6）	高 崎 知 臣	松 本 恒 憲	吉 田 省 三
28	1995年（平成7）	長 野 作 郎	水 城 昭 正	高 野 博 義
29	1996年（平成8）	篠 隈 光 彦	明 石 恒 敏	山 口 民 雄
30	1997年（平成9）	中 島 祥 光	久 保 隆	松 尾 剛
31	1998年（平成10）	長 友 隆 典	沼 中 輝 夫	山 本 俊三郎
32	1999年（平成11）	古 賀 隆	野 口 賢 治	西 田 光 徳
33	2000年（平成12）	吉 田 省 三	沖 永 俊 郎	藤 野 和 之
34	2001年（平成13）	松 本 恒 憲	戸野川 正 雄	上 田 修
35	2002年（平成14）	横 山 直 登	大久保 俣 住	柳 川 昌 平
36	2003年（平成15）	山 本 俊三郎	中 島 英 之	西 山 多嘉禰
37	2004年（平成16）	水 城 昭 正	上 田 修	児 嶋 峻 司
38	2005年（平成17）	西 田 光 徳	松 尾 剛	吉 松 慶 二
39	2006年（平成18）	藤 野 和 之	西 山 多嘉禰	大 沼 繁 雄
40	2007年（平成19）	大久保 俣 住	戸野川 正 雄	中 谷 正 紀
41	2008年（平成20）	松 尾 剛	大 島 実	柴 田 擴 志
42	2009年（平成21）	中 島 英 之	山 崎 広太郎	西 山 多嘉禰
43	2010年（平成22）	戸野川 正 雄	一 色 美 昭	女 賀 信 治
44	2011年（平成23）	児 嶋 峻 司	松 尾 剛	西 山 多嘉禰
45	2012年（平成24）	山 崎 広太郎	秋 好 正 成	西 山 多嘉禰
46	2013年（平成25）	大 沼 繁 雄	水 城 昭 正	山 本 政 人
47	2014年（平成26）	乗 本 成 人	秋 好 正 成	女 賀 信 治
48	2015年（平成27）	山 本 政 人	松 尾 剛	入 江 勇 臣
49	2016年（平成28）	柴 田 擴 志	女 賀 信 治	水 城 昭 正
50	2017年（平成29）	一 色 美 昭	篠 隈 光 彦	野 口 明 彦

チャーターメンバー 一覧表

福岡博多東ライオンズクラブ

結成式：昭和43年6月26日

チャーターナイト：昭和43年10月10日

チャーターメンバー：37名

平成30年2月20日：在籍1名

新宮 大三郎

浄見 晴夫

乙藤 譲慶

樋口 保三郎

林 文彦

久家 義松

川原 俊夫

大塚 康弘

河村 末雄

真武 弘之

長野 作郎(在籍)

渡辺 敏助

渡辺 精二

善生 茂雄

杉 正男

初村 与三吉

松尾 隆

杉原 一志

徳永 博巳

待鳥 初民

松木 清陸

首藤 準之助

野中 定次

那須 由夫

中山 憲一郎

梅野 達輔

瀬戸 晃

椿 秀夫

稲尾 武義

西嶋 要次郎

鮎川 兼祐

喝川 博己

中林 裕

徳島 喜太郎

永倉 三郎

桂 正

池田 国司



福岡博多東ライオンズクラブ 家族会員名簿

(2018.2.20 現在)

(順不同)

	家族会員氏名	スポンサー
1	ふじの たえこ 藤野 耐子	L. 藤野 和之
2	はしもと とよこ 橋本 豊子	L. 橋本 勝
3	いっしき ちよこ 一色 千代子	L. 一色 美昭
4	みずき けいこ 水城 桂子	L. 水城 昭正
5	めが のぶこ 女賀 信子	L. 女賀 信治
6	みやた ちつみ 宮田 千津美	L. 宮田 克彦
7	にしやま さちこ 西山 幸子	L. 西山 多嘉禰
8	なかじま よしこ 中島 芳子	L. 中島 英之
9	おおくぼ けいこ 大久保 圭子	L. 大久保 俣住
10	わきやま よしとも 脇山 義友	L. 篠隈 光彦
11	いわなか さとし 岩中 智	〃

	家族会員氏名	スポンサー
12	やまさき だいち 山崎 大地	L. 山崎 広太郎
13	やまさき みちこ 山崎 美智子	〃
14	やまもと ゆかり 山本 由加里	L. 山本 政人
15	しばた えり 柴田 恵理	L. 柴田 擴志
16	たかやなぎ あけみ 高柳 あけみ	L. 高柳 賢一
17	やまもと かずこ 山本 和子	L. 山本 俊三郎
18	もり ひろこ 森 浩子	L. 森 勝之

福岡博多東ライオンズクラブ 50年のあゆみ

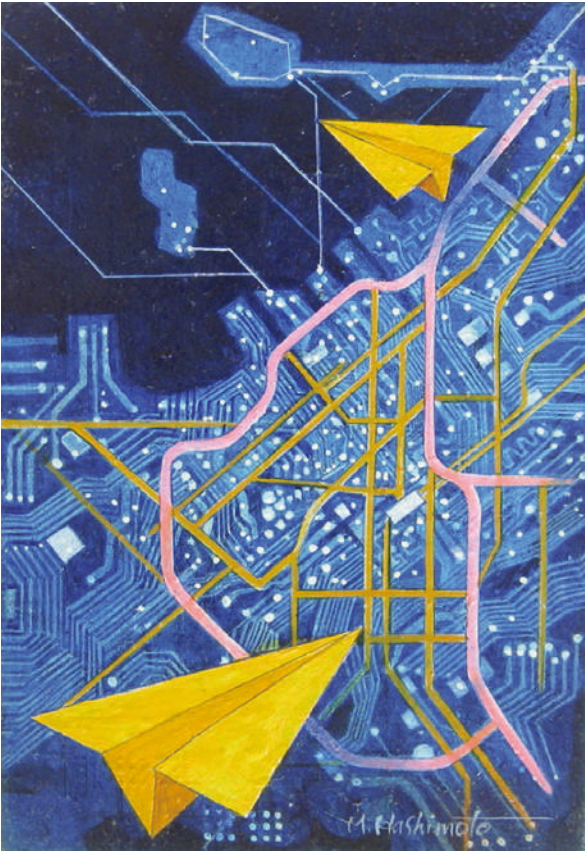
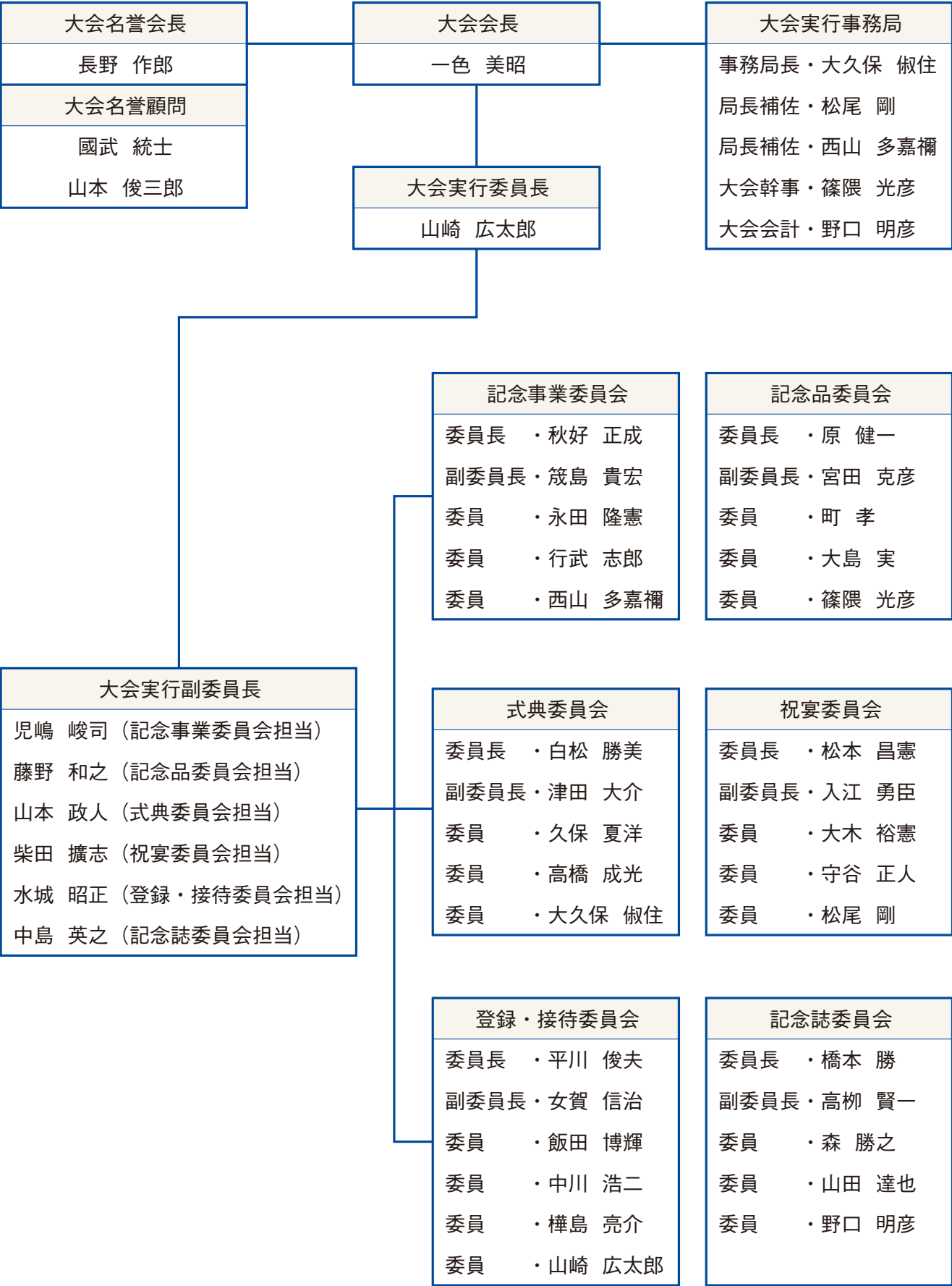
(主要事項のみ記載)

年	歴史とエクステンション	記念行事・アクティビティ	クラブ内の主な行事
1968 (S43)	結成 (6/26)	●ニューハカタホテルにて結成式	●初代会長：新宮大三郎 初代幹事：川原俊夫
	チャーターナイト (10/10) 会場：九電記念体育館 会員数：37名	●市民の森 (油山) に「ブロンズ獅子像」寄贈 ●博多署に「パトカー」1台寄贈	●合同親睦絵画展 (福岡相互銀行 中洲支店) ●例会会場を博多全日空ホテルに変更
1973 (S48)	結成 5周年 会員数：102名		
1975 (S50)	台北市光華獅子會と姉妹クラブ 締結 (11/24)	➡以降、現在まで毎年相互訪問を行い、親善活動を 継続中	●4R合同事務局をしんれんビルに開設
1977 (S52)			●L.杉 政穂が1Z、ZCに就任 ●福岡博多東ライオンズクラブの法被を制作 ●クラブ会員数100名を超える
1978 (S53)	結成 10周年 会員数：111名 福岡那の津ライオンズクラブ結 成 (2/28) チャーターメンバー58名	●福岡市立美術館に「母子像」(安永良徳作)を寄贈 (福岡那の津ライオンズクラブと共同)	●元旦に宮地獄神社に参拝 ●福岡博多東ライオンズクラブ奉仕音頭を 発表 (作詞者：首藤準之助)
1980 (S55)		●美和台少女長刀クラブへ長刀、防具袋を寄贈 ●八代亜紀ショー開催	
1981 (S56)		●日比友好親善民族舞踏のタベを開催 ●フィリピンのネグロス島に中古衣料を寄贈	●会員名簿初版発行 会員数86名
1982 (S57)		●福岡県教育委員会に横断旗1000本を寄贈 ●博多老人ホームにテント・紅白幕を寄贈	●L.杉原一志が337-A地区4R・3Z ZCに就任 ●全会員が紋付袴で十日えびすに参拝
1983 (S58)	結成 15周年記念式典 (5/24) 会員数：84名	●福岡市平和台舞鶴公園陸上競技場に「時計台」を 寄贈	●大会実行委員長：田中優文、大会会 長：島田昌幸 ●大会実行副会長：木村末武 ●L.大島 明が337-A地区4R RCに就任
1986 (S61)	福岡祇園ライオンズクラブ結成 (4/8) チャーターメンバー27名	➡(平成16年6月解散)	●L.稲尾武義 337-A地区4R・3Z ZC に就任
1988 (S63)	結成 20周年記念式典 (4/12) 福岡那の津ライオンズクラブ10 周年と合同開催 会員数：65名	●合同)福岡国際交流協会のレインボー留学生基金へ 500万円を寄贈 ●合同)福岡市中洲遊歩道にブロンズ像「微風」(高倉 準一作・500万円)を寄贈 ●愛の一元玉募金(現在の一日一善募金)開始(フク ニチ厚生事業団)	●大会会長：杉原一志、大会委員長：杉 政穂、会長：古川弥作
1989 (S64)	北九州帆柱ライオンズクラブと友 好クラブ締結 (4/14)	●LCIF献金(個人寄付364万円) ●社会福祉センターへ電子複写機を寄贈	
1991 (H3)		●LCIF献金(個人寄付210万円) ●博多大丸前にブロンズ像寄贈	●L.杉原一志 337-A地区ガバナーに就任
1992 (H4)	博多シティライオンズクラブ結 成 (5/12) チャーターメンバー36名	●博多駅前清掃活動(以降 恒例化) ●雲仙岳噴火災害援助金(30万円)	●L.片山一郎 337-A地区4R・3Z ZC に就任
1993 (H5)	結成 25周年記念式典 (3/16) 会員数：58名	●記念)福岡市地下鉄空港線延長開通記念に福岡空 港駅コンコースにブロンズ像「輝樹」(望月菊磨作)を 寄贈 ●記念)LCIFに個人献金 84口抛出(84000ドル)	●大会会長：平井喜久哉 名誉会長 杉 原一志 大会実行委員長：片山一郎 ●L.大島 昭 337-A地区 4R RCに就 任
1994 (H6)		●国際協会認定作業帽子制作	
1995 (H7)		●夢見る子供基金への支援開始(20万円/年)平成 25年まで継続	●L.大島 昭(大会記念式典)600回出席 賞受賞
1997 (H9)		●ネパール児童教育支援事業を30周年記念事業に正 式決定。共同事業者：福岡那の香ライオンズクラブ ●福岡・ネパール児童教育振興会を設立。理事長に L.篠隈光彦が就任	●L.篠隈光彦 337-A地区4R・3Z ZC に就任
1998 (H10)	結成 30周年記念式典 (2/24) 会員数：66名 福岡那の香ライオンズクラブ結 成 (4/23) チャーターメンバー26名	●記念)ネパール・ニルマルボカリ村にネパール・ボカラ ガンダキ・LCと提携し小学校を建設し寄贈。ネパー ル児童教育振興会に学校建設費200万円を支援 ●記念)第1回福岡市金印ライオンズカップソフトバレー ボール大会を主催(以降毎年開催)	●大会会長：中島祥光、大会実行委員 長：長野作郎 ●L.山崎広太郎 福岡市長に就任 ●L.松尾 剛 福岡市ソフトバレー連盟理事 長に就任
1999 (H11)		●福岡ニルマルボカリ小学校が開校(117名入学) ●福岡那の香LC、ガンギラLCとの共同による国際人 道支援事業として福岡・ネパール児童教育振興会に LCIFより10000ドルが交付される	
2000 (H12)		●第1回チャリティーゴルフ大会開催(以降毎年継続) ●福岡市私立幼稚園連盟より福岡・ネパール児童教 育振興会に1000万円が寄付される	●L.片山一郎 337-A地区4R RCに就任
2001 (H13)		●337-A地区47回大会記念アクティビティー「アイラ ンドシティーヘライオンズの森記念植樹」を発表	●福岡にネパール名誉領事館新設、L.篠隈 光彦が初代ネパール王国名誉領事に就任 ●第1回桂文珍独演会開催(ベシシティ 21LCと共催)全7回開催

年	歴史とエクステンション	記念行事・アクティビティ	クラブ内の主な行事
2002 (H14)		●福岡鶴城LCから福岡・ニルマルボカリ学校に図書 館が寄贈される	
2003 (H15)	結成 35周年記念式典 (2/21) 会員数：57名	●記念)福岡・ネパール児童教育振興会支援資金 ●記念)アイランドシティー「ライオンズの森」植樹資金 ●記念)精華女子高等学校吹奏楽部助成金(教育助成金) ●記念)福岡市平和台陸上競技場「時計台」補修費 (15周年記念事業制作) ●SARS 予防マスクを台北市光華獅子會へ寄贈・中 華民国より感謝状 ●ネパール・ニルマルボカリ村の村越しを開始(コーヒー栽培)	●大会顧問：長野作郎、大会会長：横山 直登。大会実行委員長：片山一郎 ●精華女子高校吹奏楽部により福岡博多 東ライオンズクラブ音頭を式典にて演奏 ●獅子新報創刊
2004 (H16)		●第7回福岡金印ライオンズカップソフトバレーボール 大会を開催	●作業用ジャンパー制作 ●L.宮副勝彦 337-A地区4R・3Z ZC に就任
2005 (H17)	ライオンズの森 開園式典 (9/14) 福岡市東区アイランドシティ	●JICAが草の根協力事業としてニルマルボカリ村の コーヒー栽培を採用 ●老健施設に散髪奉仕	
2008 (H20)	結成 40周年記念式典 (2/22) 会員数：47名	●記念)インドネシア共和国リウア諸島州バタム島の「福岡 ライオンズの森」プロジェクトを支援。NPO法人「ライオ ンの森プロジェクト」を立ち上げ、理事長にL.山崎広 太郎が就任 ●薬物乱用防止啓発活動を開始	●大会顧問：長野作郎、大会会長：大久 保敏住、大会実行委員長：宮副勝彦 ●精華女子高校吹奏楽部が式典で演奏
2009 (H21)		●インドネシアのバタム島でマングローブの植林事業 ●台湾の台風8号による被害者へ台北市光華獅子會 を通じて義援金を寄贈 ●福岡ニルマルボカリ学校卒業生の日本留学生に対し て奨学金の支援を開始	
2010 (H22)	1000回記念例会を開催	●インドネシアのバタム島でマングローブの植林事業 ●1000回例会記念①「薬物乱用防止・ダメゼッタイ」 講演集を発刊②ホームページを立ち上げる	●L.水城昭正 337-A地区4R・3Z ZC に就任
2011 (H23)		●インドネシアのバタム島でマングローブの植林事業 ●東日本大震災義援金(台北市光華獅子會からの義 援金を含む)を西日本新聞民生事業部に寄贈	
2012 (H24)		●九州北部豪雨被害支援金(100万円)を黒木ライオ ンズクラブを通じて寄贈 ●第51回東洋・東南アジアライオンズフォーラム(福 岡市で開催)に参加	●L.山崎広太郎 旭日重光章受章
2013 (H25)	結成 45周年記念式典 (2/26) 会員数：41名	●記念・継続)ネパールの児童教育支援 ●記念・継続)インドネシア「福岡ライオンズの森」プロ ジェクト ●記念・継続)薬物乱用防止啓発活動 ●記念)九州北部豪雨被害支援金贈呈(八女市黒木町) ●記念)東日本大震災義援金募金活動	●大会顧問：長野作郎 國武統士 宮副 勝彦 大会会長：山崎広太郎 大会実 行委員長：大久保敏住
2014 (H26)	北九州帆柱ライオンズクラブ創 立50周年(11/16)	●「前川清、武田鉄矢特別公演」を実施。収益金をス ベシャルオリンピック委員会に寄贈	
2015 (H27)	福岡博多ライオンズクラブ創立 50周年(6/13)	●ネパール大地震による福岡ニルマルボカリ学校の被 害支援活動実施 ●ダメゼッタイ。薬物乱用防止キャンペーン実施(全国 政令都市一斉 NO DRUG KNOW DRUG運動に 参加) ●台北市光華獅子會創立40周年記念式典に出席。 L.篠隈光彦が同獅子会の榮譽会長に就任	●337-A地区第61回年次大会でL.長野 作郎(92歳)、L.國武統士(90歳)が 85歳以上会員賞を受ける ●L.長野作郎(50年)、L.水城昭正(25 年)、L.大沼繁雄(20年)がそれぞれ在 籍年数の表彰を受ける ●L.女賀信治がキャビネット副幹事に就任 ●公衆衛生(薬物乱用防止啓発活動など)功 労によりL中島英之が県知事表彰を受ける
2016 (H28)	第99回ライオンズクラブ国際大 会2016が福岡で開催	●福岡工業高校120周年記念として「前川清ショー」を 共催し、純益の一部を福岡・ネパール児童教育振 興会に寄贈 ●第99回ライオンズクラブ国際大会2016の記念品とし て「ネパールコーヒー」が採用され、全世界に認知され ●薬物乱用防止啓発講演会を実施(博多女子中学・ 西鉄・飯塚小学校)	
2017 (H29)		●福岡ニルマルボカリ学校の卒業生が留学生として来 日。福岡・ネパール児童教育振興会は留学生支援 奨学基金制度を創設 ●薬物乱用防止啓発活動 講演会を開催(筑紫高校・ 西鉄本社・福岡大学 学園祭) ●50周年プレ記念事業として「ネパールの子供たち展」 (福岡アジア美術館)」を開催。収益金を福岡・ネ パール児童教育振興会留学基金に寄贈 ●九州北部豪雨被害復旧支援金(100万円)を朝倉ライ オンズクラブに寄贈 ●九州北部豪雨被害復旧支援「博多座チャリティー公 演(夫婦漫才)」を開催 ●結成50周年記念として「ライオンズの森」に記念植樹	●L.松尾 剛 337-A地区4R・3Z ZC に就任 ●L.篠隈光彦(35年)、L.山崎広太郎 (25年)、L.大久保敏住(20年)、L.西 山多嘉禰(20年)、L.平川俊夫(10年) がそれぞれ在籍年数の表彰を受ける
2018 (H30)	結成 50周年記念式典 (2/20) 会員数：44名	●記念)UAV(ドローン)を活用した災害支援・教育・ 育成事業などの推進 ●ネパール、ソフトバレーボール大会などを継続(本誌3 ページ参照)	●大会名誉会長：長野作郎、大会名誉顧 問：國武統士・山本俊三郎、大会会長： 一色美昭、大会実行委員長：山崎広太郎

※合同)➡合同アクティビティ 記念)➡記念アクティビティ 継続)➡継続アクティビティ

50周年記念事業実行委員会 組織図





福岡博多東ライオンズクラブ

〒810-0001 福岡市中央区天神3丁目15-24 三天第一ビル3F
TEL:092-771-5781 FAX:092-771-5789

福岡博多東ライオンズクラブ

結成50周年記念誌

50年のあゆみ

— 2018年2月20日発行 —

編集／記念誌委員会

委員長／橋本 勝

副委員長／高柳 賢一

委員／森 勝之 山田 達也 野口 明彦

表紙／タイトル『博多の東へ』

福岡博多東ライオンズクラブ会員

L. 橋本 勝（中央美術協会委員）